

キアラモンテ城

歴史

首都とシャッカの間の海拔85メートルに位置する、アグリジェントの同名の農業および鉱業センターにあるシクリアーナのキアラモンターノ城は、匿名で豊かな城の建築の記念碑です。岬の岩だらけの頂上、おそらくセナと呼ばれる古代都市の座席の端に建てられ、同じ名前の町の尖塔と、豊かな小麦の帝国があった地中海にそっと横たわる谷が支配的でした。このため、それは難攻不落の要塞でした。その難攻不落は、特に壁が岩の端まで透けて落ちたためでした。砦の起源はアラブ人です。イスラム教徒はそれを周囲の小さな集落「ラールまたはカラトシグリアーナ」と一緒に呼んでいました。これはロジャーノーマンに抵抗したが、1087年7月25日に署名されたアグリジェントの降伏後に破壊された11の城の1つです。カルタベッロッタの平和で終わったヴェスパーの戦争1302年8月24日の後、フェデリコの息子であり、カッカモの女性であるマルキシアプレフォリオから、フェデリコキアラモンテは、彼の価値に対する報酬として、アラゴンのフェデリコ2世から男爵領を受け取りました。ファバラとラカルムトのそれと組み合わせられたシチリアの。キアラモンテは古代のアラブの城を再建し、その残骸は地面に取り壊されました。修復作業は非常に活発に行われたため、1310年にはすでにシクリアーナの要塞が新しい生活に戻っていました。南向きの建物の正面には、塔と小道具が備え付けられていました。唯一のアクセス道路は硬い岩に刻まれ、跳ね橋とのみ連絡し、中央のアーチである玄関ホールを通過して、深い貯水槽が掘られて集められた広大な三角形のパレードグラウンドの真ん中に到着しましたそして、カステラーニの日常使用のために雨水を節約するために、包囲の際に貴重になった水（それは今日でも存在しています。本物の地下墳墓が城を「シクリアーナのカリカトレ」シクリアーナ港の近くのと同名の地区にあるセッラロンガの古代の王子様の席に接

続し、男爵が必要な場合に秘密の脱出ルートを許可しました。この地下壕への入り口は部屋にあり、1934年に自発的に封鎖されました。大きな厩舎、武器室、軍人の宿舎、厩舎のスタッフは中庭に隣接していました。作物や物資を保管するための広大な倉庫、刑務所、シクリアーナで最も古いサンロレンツォ教会は世紀半ばにまでさかのぼります。「マドンナデッリアンジェリ」としても知られ、最初の崇拜の席十字架毎年5月の初めにシクリアーナで祝われる。この小さな教会は、古くて堅実な兄弟愛の座でした。南東には「第四貴族」と呼ばれる2階建ての部屋があり、男爵の住居とレセプションの場所として使用されていました。1900年代初頭までの内部の部屋では、古代のフレスコ画の遺跡を鑑賞することができました。ここでは、1311年に、フェデリコキアラモンテの唯一の娘、コスタンツァはサヴォーナ侯爵の未亡人、アントニーノデルカレットと1335年にサルデーニャの知事であるジェノバの貴族ブランカレオーネドリアとの2度目の結婚が行われました。シクリアーナ城の選択のようです。場所と構造の魅力だけでなく、シクリアーナ要塞で締結された協定がプロビデンスによって祝福されたという信念によっても決定されました。この信念は、信仰と迷信が混ざり合っ、シクリアーナの要塞を豊かさの象徴にまで高めました。これはそこで行われた多くの結婚式と高貴な合意を説明しています。ブランカレオーネドリアは、「神曲」の神曲地獄でダンテアリギエーリが言及したキャラクターです。1312年の終わりにアグリジェントで起こったフレデリックの死後、男爵領とシクリアーナの城は彼の普遍的な相続人であるコスタンツァに行きました。コスタンザは刺繍師に囲まれるのが大好きで、芸術全般を高く評価していました。彼は1350年3月にアグリジェントで亡くなり、その称号と財産は、長男であるラカルムートの男爵であるアントニオデルカレットキアラモンテに委ねられました。アントニオが素晴らしさを惜しまずシシリアン城で開催したレセプションは非常に祝われました。アントニオ・デル・カレットの死により、シクリアーナの領主は、1398年にアラゴンの王冠に反抗したシクリアーナの男爵に対するマルティノー王の説得力のある支持者と彼の誰もが認める支持者である長男ジェラルドに渡されました。しかし、ジェラルド・デル・カレットはピエモンテに

引退し、男爵領とシクリアーナの土地を弟のマッテオに任せました。この所持は、血統への感謝のしるしとして、1401年にマーティン王によって確認されました。マッテオ・デル・カレットの死後、シクリアーナの土地は1408年に長男ジョバンニに半分はリカータの貴族アンドレア・カロに渡されました。1427年、カタロニアの貴族ギルベルト・イスファー・デ・コリーユは、シクリアーナの領主、土地、城を取得しました。シクリアーナは、3年後に領主の穀物ローダーである穀物から輸出する権利を彼に与えたマグナニマスのアルフォンソ王をきっかけにシクリアーナに渡されました。製品、ならびに権利および副任命する権利。このエレジジオーネは、ナポリ王国の征服中に提供された功績のあるサービスに対する「勇敢な」主権者ギルベルトの報酬を構成しました。ギルベルトは優しいセックスをまったく軽蔑せず、熟練したハンターでもありました。1437年、ギルベルトの息子であるジョバンニガスパーレは、1458年1月29日にアルフォンソ王の特権で、隣接するモンフォルテの領土を、後にカトリカの市民権をホストするシクリアーナの領主と関連付けるために取得した男爵領に投資されました。ヴィンチェンツォコリーユは、1491年に父親のジョバンニガスパーレからシクリアーナの土地と城を継承し、男爵領をグリエルモヴァルグアルネーラに復讐しました。しかし、男爵領は1526年5月26日に投資されたジョバンニ・イスファー・デコリーユによって買い戻されました。ジョバンニは、しもべに要求する、ひどい男でした。彼は城にスペイン文化の建築的痕跡を残しました。彼は香水に特別な好みを持っていました。この家族の最後は、1642年にフェリペ2世が公国を育てたプラタニ川のほとりにカトリカを設立したローラガエターノの夫であるブラスコでした。ディ・ブラスコは植物学が好きだったと言われていました。彼は城の庭で、彼が選んだことを喜んでいた植物種の植え付けを直接行ったようです。彼の唯一の娘ジョヴァンナは1616年10月1日にシクリアーナとこの都市の領主を引き継ぎ、ミジルメーリ公爵でカトリカの初代王子であるヴィンチェンツォデルボスコに持参金としてこれらの所有物をもたらしました。「デルボスコ」家は1668年にジュゼッペの死で亡くなりました。フランチェスコ・デル・ボスコ・イスファーの息子。1721年5月12日、ロザリアデルボスコサ

ンドヴァルとフィリッポボナンノマリーニの息子であるロッカフィオリータの王子である彼の母方の叔父フランチェスコボナンノデルボスコが男爵領に投資しました。フランチェスコは絵画の愛好家であり、かつて「第4の貴族」1900年の初めにアグネロ男爵によって取り壊された。称賛された Fresco 画のほとんどを借りています。1779年11月にナポリで亡くなった後、彼の長男であり普遍的な相続人であるジュゼッペボナンノフィランジェリは、シクリアーナの領主で彼の後を継ぎました。これらから男爵領は1781年3月24日にフランチェスコアントニオボナンノボロメイに渡され、1798年7月9日にジュゼッペボナンノブランシフォルティに渡されます。彼の息子は1820年のパレルモ蜂起の際に殺害されました。1899年、それはアントニオ・ボナンノ・ペレスでした。後者は城に立派なセラーを受け、彼自身は洗練されたワインメーカーでした。シチリアの封建制度が終了したとき、城は「刑務所」刑務所として使用されました。独房の古代の扉には、囚人の名前が刻印されており、自分の手で刻まれています。1924年まで、それは地区刑務所として使用されていました。財産はその後、「第4貴族」1934年を破壊したアグネロ男爵の相続人に渡されました。これは、貧しい家とは対照的なネオゴシック様式の豪華な別荘を建設するための最大の歴史的および芸術的関心の一部です。下流に建てられた庶民の、まだ封建的な痕跡の社会構造の明白な兆候。ナイトアグネロのゲストであるジュゼッペトマシディランペドゥーサは、20世紀の著名な作家であり、1955年9月4日から10月11日までこの最後の別荘に住んでいました。様々な学者によると、ここで、トマシは死後の作品である「イル・ガットパルド」の最後の部分のページを書いた。また、1950年代には、カールハインズストクハウゼンは、アニェッリ家のゲストでもあるアニェッリ宮殿に住んでいました。